

地域づくりレポート < 04 - 3月度レポート >

テーマ : 河川」

報告者 : 黒沼貞志

河川」の中でも < 治水 利水 > に焦点を絞るようにインストラクションが有りましたので、この点に沿い、以下に纏めてみました。

1. 貴省の赤川での試験 (山新 04 - 3 - 4記事 新聞記事添付)

本件の提案者 NPO 法人の岡部代表者とは、小職が発明協会の『特許流通アソシエイト』の立場でお付き合いしている中でコミットさせて戴いており、その特許出願などをはじめとした相談に関わりました。

この試験が成功裏の結果が得られ、治水 利水 環境保全のモデルケースになる事を祈念しております。

本発明は河川に限らず湖沼、農業貯水池、海岸その他への活用の可能性を秘めておりますので興味を持ってウォッチングしていきたいと思えます。貴省で把握した情報がありましたら可能な範囲で開示願えますと幸甚です。

なお、前述の小職のアクティビティについては < 独り言 > と扱って戴きお忘れください (一人歩きして関係者にご迷惑をお掛けする場合がありますので・・・)。

2. 再び「ダム」について

長野県の「脱ダム」宣言が話題になりました。

これまでの国策をはじめ永い歴史があるので若輩の身には荷が思いのですが、この「ダム」問題については今後の論議に次のような視点も加味する必要があると感じております。

(1) 世界的人口の予測と食糧問題 :

現在の日本は食糧自給率低下を嘆くばかりの超輸入国に甘んじておりますが、20年先の世界的人口問題を視野に入れた場合、20年後には日本には食料が入ってこない可能性が高いという指摘がなされております (そうならない事を祈りたいところですが)。

いまのアジアをはじめとした日本への輸出国が、自国の人口の急増により自国を賄う事で精一杯となり輸出が出来なくなるという予測です。

(2) その時まで日本が自給率を上げた場合のポイント :

その幾つかのポイントの中の大きなポイントは【水】です。

農産物に限定してみても、減反、休耕地、・・・あらゆる遊休地を総動員したとして、農産物に不可欠の【水】の確保が大きな課題・障害として浮上すると思われれます。

ダムの必要性を考える場合の視点として以上のような点を考えることもこれからの重要なポイントではないでしょうか？

この論議は月々のレポートで詳述するにはテーマが重たいと思えますので、その指摘に留めさせて戴きました。

以上